

2020年度環境経営レポート

(対象期間：2020年3月1日～2021年2月28日)



Shimizucho
 **清水長 金属工業株式会社**
Benefit for Future by FACE TECH

作成日：2021年6月2日

更新日：-

環境経営方針

『省資源を図り、法を遵守し「地域・地球」の環境を守る』

■ 環境理念

長い歴史の中で豊かな四季の移ろいととも自然と共生する文化を日々の暮らしや生き方の中に取り込み、脈々と受け継いできた山紫水明のまち…ここ京都は、京都議定書誕生の地として世界的に認知される環境先進都市であり、また、人的・文化的資源が融合・集積し、伝統から最先端まで幅広い分野の産業が息づく世界有数のモノづくり都市でもあります。

この京都の地で、わたしたち清水長金属工業株式会社は金属表面処理【めっき】という環境負荷が大きく公害リスクの高い事業活動を行っているその責任の重大性をよく認識し、「かけがえのない地域・地球の環境を健全な状態で次世代に引き継いでいくことが、現存する我々の基本的責務である。」との使命感を持ち、持続可能な社会の実現に貢献し、顧客・社会から認められ求められる企業となる為、全社一丸となって、下記の行動指針に対し積極的に取り組んでまいります。

■ 行動指針

以下の指針に基づきCO₂排出量削減と省資源を図り、法を遵守し『地域・地球』の環境を守ります。

(1) 環境関連の法令遵守（水質汚濁防止・大気汚染防止・土壌汚染防止など）

環境に関する法律及びその他顧客等の要求事項を遵守し、環境保全・公害防止に努めます。

(2) CO₂排出量の低減（省エネルギー化・高効率化）の推進

電力・ガス等のエネルギー資源を有効利用しCO₂排出量低減や高効率化に努めます。

(3) 廃棄物（産業廃棄物・事業系一般廃棄物）の3R化の推進

廃棄物の分別収集を推進し、再資源化など3R活動に積極的に取り組みます。

(4) 節水活動の推進

工場で使用する水資源の節約や有効利用に積極的に取り組みます。

(5) 化学物質の適正管理と有効利用の推進

処理液管理方法やめっき工法等を見直す事により化学物質資源の低減に努めます。

(6) 環境啓発活動の展開

全社員が環境負荷低減を積極的に実践できるように、この環境経営方針を周知するとともに、社外にも公表します。

(7) 地域活動として社会貢献活動の展開

自社の環境整備にとどまらず、近隣住民・地域への環境配慮に努めます。

(8) 製品及びサービスに関する環境への配慮

環境に配慮した製品の開発・販売促進および工程プロセスの確立を推進します。

(9) グリーン購入の推進

環境にやさしいエコ商品の優先購入や購買品の管理を推進します。

制定日 2019年 4月 1日

清水長金属工業株式会社

代表取締役社長

山本 剛史

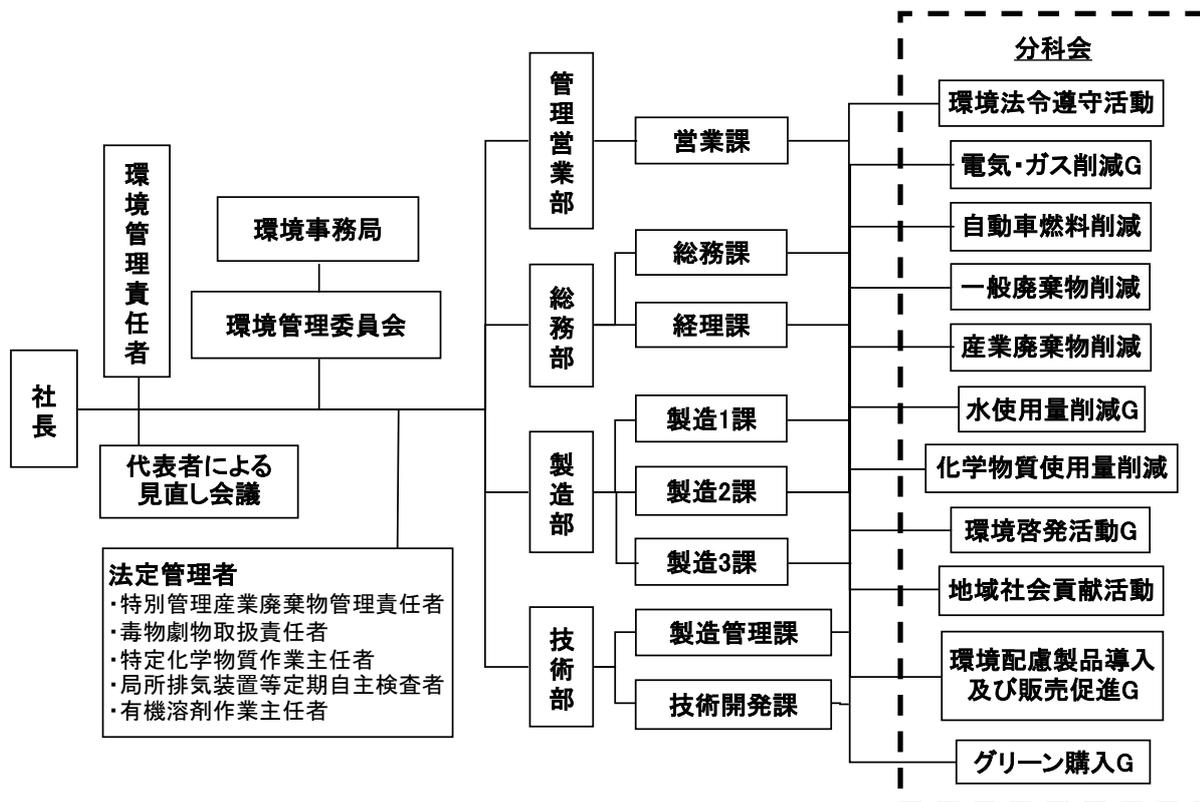
□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
清水長金属工業株式会社
代表取締役社長 山本 剛史
- (2) 所在地
本社・工場: 京都市南区西九条高島町31番地
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先
環境管理責任者 常務取締役 木村 昭則
担当者(環境事務局) 技術部技術開発課 課長 加藤 洋平
TEL: 075-681-7331
FAX: 075-691-2348
E-mail: c.s.-kaihatu@shimizucho.com
- (4) 事業内容
電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
主要加工品目
電気めっき(銅・ニッケル・クロム・錫・銀・亜鉛・黒ニッケル・錫-コバルト合金)
化学めっき(ニッケル-リン・ニムテック)
ブラスト (サンドブラスト・液体ホーニング)
- (5) 事業の規模
資本金 1,500万円 床面積 3,641㎡ 従業員数 55名(2021年4月現在、役員・パート含む)
- (6) 事業年度 3月～翌年2月

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名: 清水長金属工業株式会社
 活動: 電気めっき・化学めっき及びショットブラストによる表面処理加工業
 対象: 全社・全事業

□実施体制



□主な環境負荷の実績

項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	750,379	758,247	654,431
電力	kg-CO ₂	347,649	349,547	303,874
灯油	kg-CO ₂	41,714	40,562	23,978
都市ガス	kg-CO ₂	312,994	319,597	284,586
ガソリン	kg-CO ₂	3,649	5,028	5,596
軽油	kg-CO ₂	43,461	43,560	42,370
廃棄物排出量	kg	159,768	96,123	164,253
一般廃棄物	kg	3,541	3,171	3,312
産業廃棄物	kg	156,227	92,952	160,941
総排水量	m ³	36,433	36,562	32,887
水使用量	m ³	36,433	37,642	34,745
化学物質使用量	kg	5,502	5,026	3,597

* 化学物質使用量はPRTR法第一種指定化学物質の合計使用量

* 電力の二酸化炭素排出係数は0.334kg-CO₂/kWh

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準年度	2020年度		2021年度	2022年度
			(目標) 基準年度比	(実績) 基準年度比	(目標) 基準年度比	(目標) 基準年度比
電力からのCO ₂ 排出量削減 *1	kg-CO ₂	303,874	294,758	280,016	277,216	274,444
		2019年度	97.0%	92.1%	99.0%	99.0%
都市ガスからのCO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	277,792	277,792	283,257	294,304	291,361
		2019年度	100.0%	102.0%	103.9%	99.0%
自動車燃料からのCO ₂ 排出量削減	kg-CO ₂	47,967	47,487	45,415	44,961	44,511
		2019年度	99.0%	107.2%	99.0%	99.0%
ニッケル化合物使用量の削減	kg/百万円	3.839	3.451	3.569	3.583	3.547
		2019年度	89.9%	93.0%	100.4%	99.0%
シアン化合物使用量の削減	kg/百万円	1.629	1.582	1.506	1.623	1.607
		2019年度	97.1%	92.4%	107.8%	99.0%
脱脂剤使用量の削減	kg/百万円	0.469	0.475	0.419	0.478	0.473
		2019年度	101.2%	89.3%	114.1%	99.0%
一般廃棄物の削減	紙再生比	21.6%	25.0%	21.1%	25.0%	30.0%
		2019年度				
産業廃棄物の削減	kg/百万円	286.0	313.0	331.7	315.5	312.3
		2019年度	109.5%	116.0%	110.3%	109.3%
給水量の削減	m ³	34,636	33,611	38,947	37,243	36,871
		2019年度	97.0%	112.4%	107.5%	99.0%
グリーン購入		—		*2		
環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの確	環境対応めっき販売占有率	9.3%	12.1%	9.9%	*2	
		2019年度				
地域社会貢献活動		—		*2		

*1 電力の二酸化炭素排出係数は0.334kg-CO₂/kWh

*2 数値目標設定が困難な為、行動目標を設定し活動した。

具体的な目標と実績は「環境活動計画と取組結果及び評価」を参照。

*3 2021年度及び2022年度の目標は2020年度を基準年とした。

□環境活動計画と取組結果及び評価、次年度の取組内容

◎よくできた ○まあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
電力からのCO₂排出量削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
ピークカット	○	継続	内製売上:-16.2%、電気使用量-6.5%、電気費用-9.1%、使用量原単位 0.55、費用原単位 34.28 で変動費と云うより、固定費的な要素が大きいと考えます。来期、『使用量、デマンド値の抑えどころ・抑え月』にどう動くかが鍵で研磨作業場も含めて下さい。
夏季のデマンド値ピークシフト対策	○	変更	
適切な温度によるクーラーの運転	○	継続	
エアコン、冷風機のフィルター清掃	○	継続	
電気配線、コンセント類の定期点検、清掃	○	継続	
冬季のデマンド値ピークシフト対策	△	変更	
地震感知式のブレーカーの検討、導入	△	変更	
ジェットヒータの見直し	×	継続	
ガスからのCO₂排出量削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
処理槽・蒸気配管等のメンテナンス	×	継続	内製売上:-16.2%、瓦斯使用量+2.0%、瓦斯費用-11.8%、使用量原単位 3.47、費用原単位 67.46で固定費的な要素が大きいと考えます。来期、『使用量の抑えどころ・抑え月』にどう動くかが鍵です。
断熱材の補修と新たな処理槽への取り付け	○	継続	
蒸気配管の点検・修繕	○	継続	
ボイラ使用の管理及び標準化	△	継続	
自動車燃料からのCO₂排出量削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
ノーマイカーデーの開催	×	継続	最終集計値に少し差異がありました。特にRガソリンの費用については費用÷購入量(L)では一般の数倍の単価となります。商用車の燃費を比較するのであればよいが、自動車燃料の削減であれば金額だけでなく総量(L)で比較とすべきと考えます。
無駄走りデータ収集と削減	○	継続	
無駄走りデータの見える化	×	継続	
燃費データ収集	△	継続	
車両毎の燃費の見える化	○	継続	
エコドライブ強化週間実施	○	継続	
社用車の事故、賠償金額の収集	○	継続	
ニッケル化合物使用量の削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
無電解ニッケル槽析出防止	△	継続	集計は精度よく算出されていました。分科会での活動内容、日々の監視体制が徐々に整ってきており、活動成果が数値としてあらわれて来るようになってきました。来期は職場環境の整備・改善に注力願ひ、処理液の長寿命化へのトライを願ひます。
ザラツキ誘発物の処理液混入防止対策	○	継続	
バルブ操作ミスでの更新防止策	×	継続	
シアン化合物使用量の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
銀めっき液の延命化	△	継続	集計は精度よく算出されていました。分科会での活動内容、日々の監視体制が徐々に整ってきており、活動成果が数値としてあらわれて来るようになってきました。来期は職場環境の整備・改善に注力願ひ、処理液の長寿命化へのトライを願ひます。
ジンケートのシアンフリーの挙動確認	△	継続	
不良品での剥離履歴	△	継続	
脱脂剤使用量の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
油の持ち込み削減	△	継続	集計は精度よく算出されていました。分科会での活動内容で製品の状況、情報収集の精度を引上げて地道に監視・精査を続け、定量的に状況把握できる仕組み必要と考えます。製品の形状、油分持ち込み量、材質含め処理物の表面状況が著しく変化するため難しいと考えますが、各部署の協力を得ながら削減できる要素を洗い出しましょう。
薬剤の適正補給と管理	△	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
可燃物、紙くずの分別状況の定常化	△	継続	最終集計値に少し差異がありました。表内に①可燃ごみ ②紙屑 の月毎の排出量・費用と累計行を記入した方が他分科会からも推移が分かりやすいと考えます。来期は、この辺りをどうするか(持ち込まない)が課題と考えます。
3Rの推進	×	継続	

取り組み計画	達成状況	次年度	評価、次年度の取組内容
産業廃棄物の削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
油分の減少等による廃棄減少	○	継続	最終集計値(処分費用)に少し差異がありました。処分量の削減は化学物質分科会と連動することでしたが、廃棄物量を削減するには【排出量を減らす⇒ムダが生じない管理(メンテ)+ムダを生じさせない管理(改善・見直し:工程・排出方法)=処理液の長寿命化】の検討・実施が必須と考えます。来期、この辺りを種々の情報を生かし、実行しましょう。
黒革類の減少による酸の長寿命化	△	継続	
分別の徹底	×	継続	
不純物分析による適正管理	△	継続	
給水量の削減			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
ライン別目標設定	△	継続	1月、2月の稼働日数・内製売上とは比例しない状況下での給水であったと考えます。来期は、自動装飾の給水やシャワーの見直しにより、効果的に洗浄ができ節水できないか的を絞るのも手です。
夏季3か月間の増量軽減対策	○	継続	
作業時間と水量の関連把握	△	継続	
配管とバルブチェック	△	継続	
水圧アップ対流洗浄法	○	継続	
節水意識の啓発活動	△	継続	
グリーン購入			
グリーン購入手順書に基づく物品の購入	△	継続	来期は①省エネ推進:使用電灯のLED切替を完遂する。(例:イ.補助金制度の調査、ロ.自費交換する場合の見積もりをし、投資可否の判断資料として数値把握する。)②CO2排出量削減:自分達ですぐに出来る啓発活動を提案すること。(例:イ.マイバック、ロ.マイ箸...等)
グリーン購入の啓発活動	×	継続	
省エネ設備の調査・導入検討	○	継続	
グリーン購入品一覧リストの見直し	×	継続	
災害時対応品の調査検討	△	継続	
環境配慮型めっき製品の開発、販売促進及び工程プロセスの確立			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 ■基準見直し	
既存顧客の掘り起こし	△	継続	アルミ材の持つ有意性(軽量等)、その上へのめっき皮膜の組合せ特性を積極的にPRし、トライホン、コムテックのみならず広義な販促活動を願いたい。採用して頂いためっきの部品の寿命評価・性能評価が頂いたら尚良いと考えます。今は種まき、来期は水撒き、再来期は収穫に繋がる活動を願います。
広域にわたる販促活動の展開	△	継続	
新規顧客の獲得	×	継続	
環境配慮型皮膜の実現と提案でニーズに対応	×	継続	
地域社会貢献活動			
週1回の会社周辺の清掃	○	継続	毎年ながら、地域貢献含め活動ありがとうございます。具体的な数値表現はできませんが近隣からの苦情ではなく、お礼の言葉を賜われる成果は最高点と考えます。コロナ禍であまり活動が出来切れませんでした。来期、【ながら見守り】活動に取組んでみましょう。
エコキャップ運動	△	継続	
古切手回収活動	×	継続	
緑化活動	○	継続	
排水処理場のペンキ塗り	△	継続	
中央通路の穴埋め	△	継続	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項(施設・物質・事業活動等)
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物、産業廃棄物(廃酸、廃アルカリ、金属くず、廃プラ等)
大気汚染防止法	局所排気装置、排風機
フロン排出抑制法	第一種特定製品の点検
水質汚濁防止法	有害物質使用特定施設の届出及び点検
下水道法	めっき設備、排水処理施設、局所排気装置
騒音規制法・振動規制法	空圧機、送風機
労働安全衛生法	集塵機、局所排気装置、めっき設備の点検、作業環境測定の実施等
消防法	シンナー、灯油の保管、消防活動阻害物質の届出
毒劇法	毒劇物の管理
PRTR法	特定化学物質の排出量及び移動量の届出
化審法	第一種特定化学物質使用の禁止

尚、関連当局からの違反指摘及び訴訟等は過去5年間ありませんでした。

口代表者による全体の評価と見直し

●全体的な取り組みについて

今期は新型コロナウイルスのパンデミックによる業績の悪化・活動の制限など、大きな変化への適応を余儀なくされた一年となりました。そのような中でスタートした20年度でしたが、先行きが読めない中、計画及び目標の設定について、期首より暫定的な形でスタートしてゆきました。

第1四半期～半期～第3四半期のチェックポイントで、「臨機応変に状況に応じた最適化」を念頭に活動してきたことが、ある意味PDCAの大原則を再認識することができ、目標の再設定で再度取組みを見直し、再スタートするという、活性化につながったことで充実した一年になったと感じています。

三密を回避するため、会社から「会議は極力開催しないか短時間に」の方針により、分科会の集まりもなかなか思うように開催できなかったにもかかわらず、リーダーとサブリーダーが主になって動き、個別に対応してくれたおかげで、おおきな活動の停滞や減速もなく、目標達成/未達成はあったものの、よく頑張ってくれたことに感謝と敬意を表したいと思います。本当にお疲れさまでした、そしてありがとうございました。

●事業継続力・強靱化について

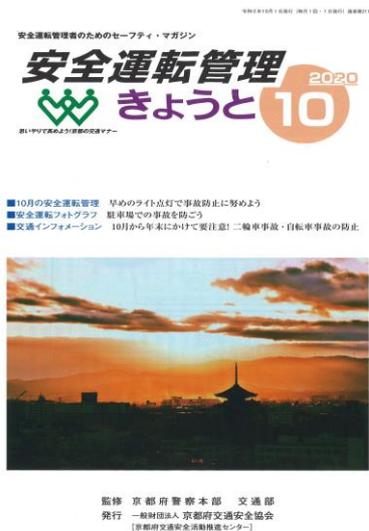
今期の実行計画「環境・防災目標」による「エコアクションとリスク管理を融合し、BCPを策定しよう！」についても、今年度はプロジェクトチーム「BCP策定WG」を発足し、コロナ特例による外部からの専門家派遣制度を利用し、集中的に取り組んだことにより、経産省「事業継続力強化計画」認定を受けることができました。

これにより、BCPの大骨子が固まり、次年度はより詳細に、より具体的に、より自社に合った実効性のある有用なBCPに作り上げてゆきたいと考えます。そして、その暁に「レジリエンス認証」を狙いたいと考えています。

●2030年を見据えて

また、世界的な潮流…SDGs・ESG・カーボンニュートラル・脱プラスチックなどの世情動向にも注視しつつ、当社においても将来的な取り組みをどうするかは経営上重要な課題と認識します。「これからの10年(2030年)に照準を合わせた舵取り」を念頭に置いた経営を次年度より本格的に取り組んでゆきます。

口環境活動の紹介



一般財団法人京都府安全運転協会発行の「安全運転管理きょうと」
発車前車両点検等の自動車燃料削減活動が安全運転にも繋がるということで掲載された

節水強化月間 8/1～31

8月1日は「水の日」と定められています。

水道の出っぱなしをひかえ
必要以上に大量に水を使用せず、
貴重な資源を大切に使いましょう。

製品の品質を確保するために
水洗をきれいに保つ事は重要です。
カビの発生などに注意し、
無理なく大切に使用しましょう。

可能な範囲での節水をご協力をお願いします。
新型コロナウイルス感染症予防のため
手洗いうがいはこまめにしっかり行いましょう。




水使用削減G

節水啓発活動



公道沿いにある会社花壇の緑化活動